

「世界の記憶」国際登録 2024-2025 サイクルにおける

我が国からの登録案件の概要

1. 記録物のタイトル

増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書

2. 申請者

宗教法人浄土宗、宗教法人増上寺

3. 記録物の概要

浄土宗の大本山である増上寺が所蔵する三種の大蔵経とは、中国の宋代および元代そして朝鮮王朝時代に当時最高の印刷技術で制作された、

- ①中国、南宋時代（12 世紀）に開版（版木が作成）された思溪版大蔵経 5,342 帖
- ②中国、元時代（13 世紀）に開版された普寧寺版大蔵経 5,228 帖
- ③朝鮮、高麗時代（13 世紀）に開版された高麗版大蔵経 1,357 冊

という、総数約 12,000 点に及ぶ木版大蔵経群である。「大蔵経」とは一蔵が 5,000 巻を超える仏教聖典の叢書であり、仏教文化の根拠と基盤をなす一大文献群である。これらは、17 世紀初頭に江戸幕府を創設した徳川家康が収集し、増上寺に寄進したものである。その後、関東大震災や東京大空襲などの危機を乗り越え、今日まで増上寺において伝承されている。

多くの大蔵経が王朝の変遷や戦乱により散逸するなか、15 世紀以前に作られた三つの大蔵経がほぼ完全な状態で所在されていることは世界で他に類を見ない。

近代になると、明治と大正時代にはそれぞれ校訂を施した大蔵経を刊行するため、増上寺で三大蔵が校合され活版印刷となり、大蔵経が広く流通したことで、仏教は近代的学問の対象となった。そして現代では最先端の技術を用いてデジタルアーカイブとなり、持続可能な地球平和と調和のための、世界の精神文化史の一環として注目されている。

4. 記録物の意義・重要性

増上寺が所蔵する三種の大蔵経は、近代の批判校訂版である『大日本校訂大蔵経』や『大正新脩大蔵経』の基幹的な典拠資料となったことで、仏教学の世界的な基盤形成に唯一無二の貢献を果たした。また三大蔵は仏教文献叢書であるが、収録される文献の内容の多様性および文化財としての重要性や稀少性から、歴史学や言語学など仏教学以外の多分野においても重要な役割を果たしている。今般、デジタル研究環境への移行にともない、三大蔵は仏教研究における世界的研究基盤である「SAT 大蔵経データベース」のテキストデータベースの典拠資料として活用された。また Unicode における文字符号化の根拠にもなり、現在まで三大蔵をもとに 3,000 字超の仏典外字が登録されるなど、デジタル時代の世界の

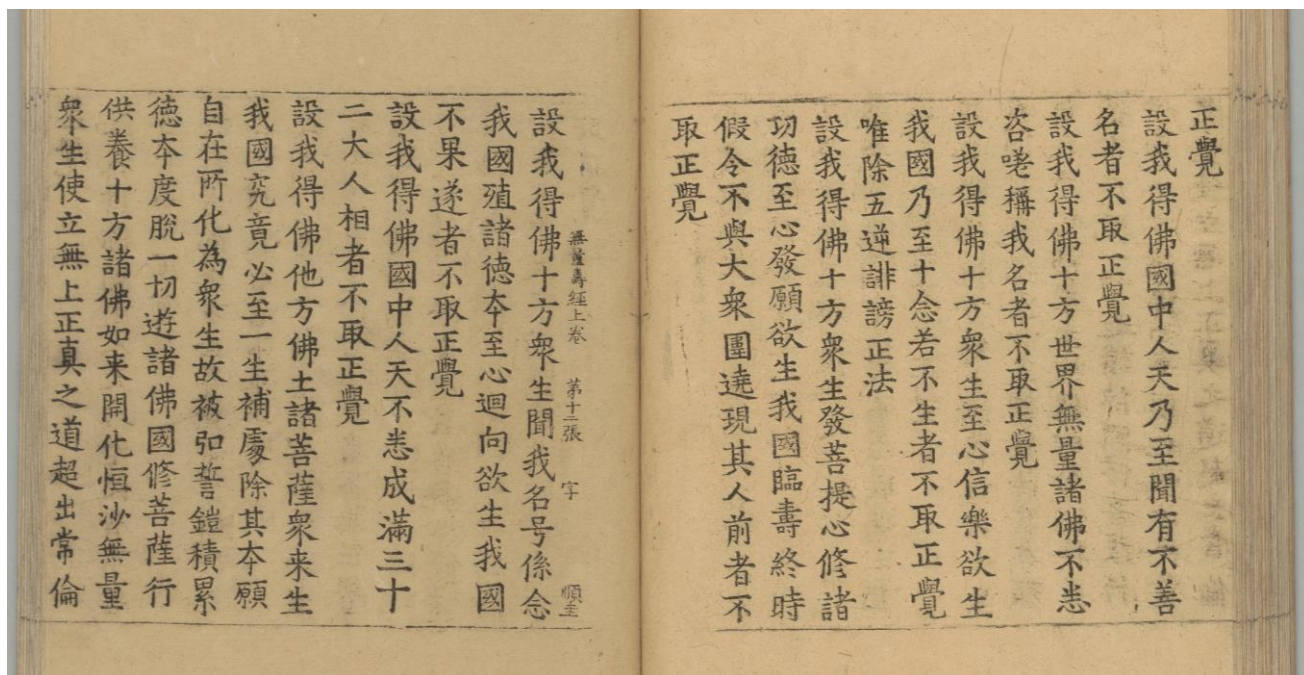
宗教・思想研究にも影響を与えている。

さらに2023年11月、この三大蔵を高精細デジタル画像としてウェブ上に無償公開した。
誰でも世界中からアクセスできるようになった三大蔵が有する重要性は、これからの長きにわたるデジタル時代において、さらに高まっていくことが想定される。

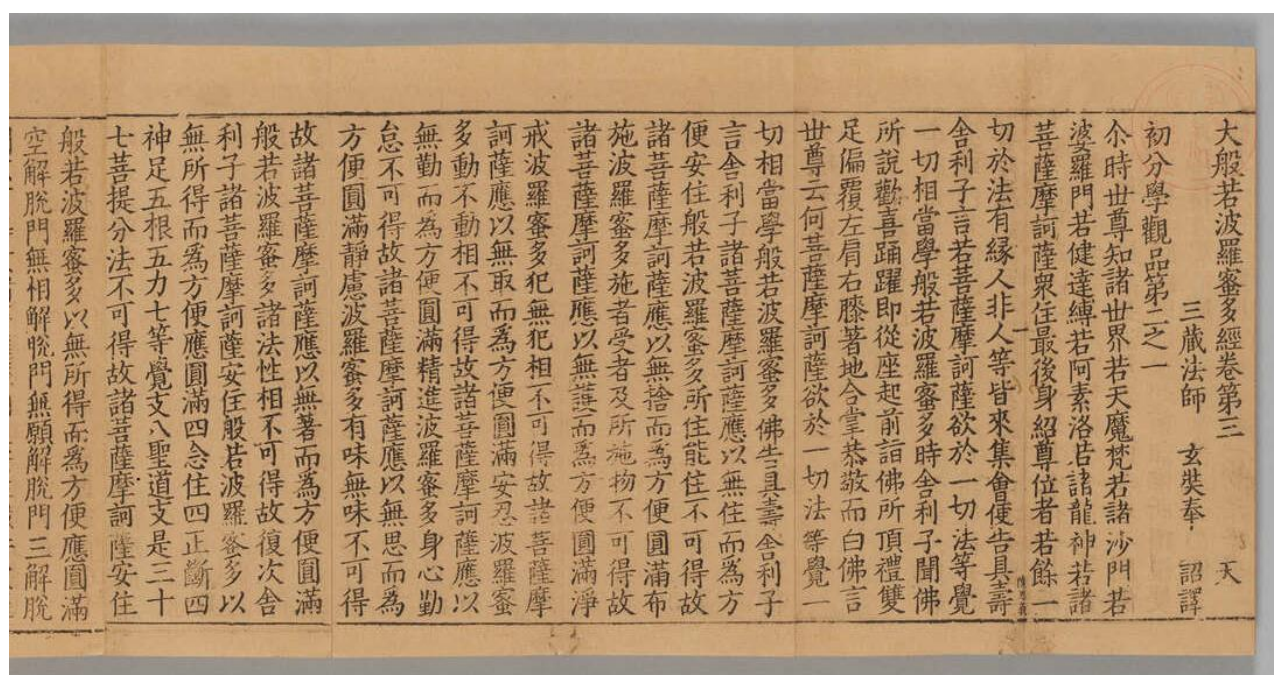
浄土宗大本山増上寺所蔵三大蔵（公開サイト）

http://jodoshuzensho.jp/zojoji_sandaizo/

〔参考画像〕



高麗版大蔵經『無量寿經』一部抜粋



普寧寺版（元版）大蔵經『大般若波羅密多經』卷第三 卷頭